

私たちの手で支えあいの地域をつくる



▷問い合わせ 芦屋町社会福祉協議会
(☎ 222-2866)

～芦屋町のボランティア団体紹介シリーズ4 「八朔の会」～

町内では、「芦屋町手をつなぐリボンの会」というボランティア団体が活動しています。その中に6団体が所属しており、さまざまな分野の活動をしています。今回は「八朔の会」を紹介します。

八朔の会（結成して39年）

- ◆活動場所 中央公民館4階
- ◆活動日時 毎週水曜日・午前11時30分から3時間程度
- ◆活動人数 29人（3班に分かれて活動）
- ◆活動に込めた想い

在宅の高齢者に栄養バランスの良い弁当を作つて届ける活動をしています。利用者のほとんどが後期高齢者ですが、住み慣れた自宅で暮らし続けたいと頑張っている人ばかりです。その人たちが低栄養にならないよう、そして食べたいと思える、楽しみな弁当づくりに励んでいます。



【活動レポート】

取材した日は、敬老の日の特別な弁当作りでした。サーロインステーキが目玉で、いつもより少し手の込んだおかずにしていました。



調理ボランティアの皆さん、それぞれの季節をイメージした弁当も作つており、心地よい疲れをみんなで共有しています。また、配達ボランティアの皆さん、利用者の自宅を訪問する際には今日も元気でいることを願い、「会えてうれしかった」と言ってもらえるよう心がけています。



八朔の会の活動に興味がある人、見学・入会をしてみたい人は、芦屋町社会福祉協議会に連絡してください。



▷問い合わせ 社会教育係
(☎ 223-3546)

「力ではなく言葉で」 現代のしつけ

「しつけ」と聞くと、子どもに対

して厳しくルールを守らせなければ
ならないと感じる人も多いと思いま
す。しかし、しつけはこどもが社会
の中で生きていくために必要なもの
です。

ここでは、しつけのポイントを2
つ紹介します。

①伝わりやすい言葉で

しつけをするときには、言葉で伝
えることが大切です。手をあげてし
まうと、何が悪いのかわからないま
ま、ただ恐怖感だけが残ります。手
をあげそうになつたときは、一度深
呼吸をして、冷静に短い言葉で、わ
かりやすく伝えましょう。子どもが
理由を納得できるように説明し、「
しなさい」という命令口調ではなく、
「～しようね」と提案すると自主性
を感じながら学ぶことができます。
また、「～しないでね」と否定的

に伝えるよりも、「～しようね」と言
い換えることも大切です。子どもは
自分がしていることを否定されると
嫌な気分になり、素直に大人の言う
ことを聞かなくなってしまいます。
例えば、「走り回らないでね」とい
うよりも、「周りの人ぶつかつた
らあぶないから、歩こうね」のよう
に、なぜそうするほうが良いのかを
一緒に伝えることで、納得して行動
に移しやすくなります。

②できたことを見つけて褒める

しつけでは、つい悪いところに目
が行きがちになり、やらなかつたこ
とを叱ってしまいます。叱ってしま
うと、こどもは「バレなければいい」
と考えるようになり、この考え方は
大人になつてもなかなか直りませ
ん。一方で、できたことを褒められ
るとこどもはうれしくなり、自主的
に動きやすくなります。褒めるとき
は、こどもの行動の結果どんない
影響が出たかも一緒に伝えると、よ
りこどものやる気につながりやすい
でしょう。

しつけを行うには、なによりも保
護者とこどもの信頼関係が成り立つ
ていることが必要です。こどもが、
「いつも見守ってくれている」と感
じられるように、ゆつたり構え、焦
らすに根気強く繰り返していきま
す。これは10年以上経験しない
とできない難しい仕事であると
知り、キッズたちは驚いていま
す。

シャボン玉石けん工場へ 見学に行きました！

8月19日にりーどばらんてい
あキッズ第3回研修会で、シャ
ボン玉石けん工場へ行きました。

最初に、石けんの原料や製法、

特徴などをビデ
オで学び、講師
から、洗剤には
「無添加石けん」
と「合成洗剤」
の2種類がある
ことなどを実験
やクイズでわか
りやすく教えて
もらいました。



りーど通信 No.59

した。

石けんの製造工程・環境に与
える影響などを学び、石けんの
使い方を意識するきっかけにな
りました。

今後も好奇心や自発性、ボラ
ンティア活動への興味・関心を
引き出す場となるように、ボラ
ンティア活動センターでは、見
学や体験も盛り込んだ活動を企
画していきます。



▽問い合わせ ボランティア活
動センター (☎ 221-10